

令和7年第5回 飯豊町議会定例会会議録

令和7年9月10日 令和7年 第5回飯豊町議会定例会は、飯豊町役場議場に招集された。

◎ 出席議員は、次のとおりである。

| | | | | | |
|----|----|-----|-----|----|----|
| 1番 | 横山 | 清彦 | 2番 | 島貫 | 寿雄 |
| 3番 | 遠藤 | 純雄 | 4番 | 高橋 | 勝 |
| 5番 | 舟山 | 政男 | 6番 | 松山 | 和好 |
| 7番 | 遠藤 | 芳昭 | 8番 | 高橋 | 亨一 |
| 9番 | 菅野 | 富士雄 | 10番 | 屋嶋 | 雅一 |

◎ 欠席議員は、次のとおりである。

なし

◎ 地方自治法第121条の規定により、説明のため会議に出席した者は、次のとおりである。

| | | | |
|-------------------------|-------|--------------------------------|-------|
| 町長 | 嵐正人 | 副町長 | 西嶋康平 |
| 教育長 | 菅原透 | 代表監査委員 | 後藤浩 |
| 会計管理者(兼) 税務会計課長 | 渡部博一 | 総務課長 | 志田政浩 |
| 企画課長 | 鈴木祐司 | 住民課長 | 細谷美佳 |
| 健康福祉課長(兼) 地域包括センター所長 | 宮川千鶴子 | 介護老人保健施設 事務長(兼) 国保診療所事務長 | 色摩里香 |
| 農林振興課長(併) 農業委員会事務局長 | 上田信幸 | 商工観光課長 | 伊藤満世子 |
| 地域整備課長 | 渡辺裕和 | 教育総務課長 | 横山昌則 |
| 社会教育課長(併) 町民総合センター所長 | 竹田辰秀 | | |

◎ 本会議の書記は、次のとおりである。

| | | | |
|--------|------|-------|------|
| 議会事務局長 | 佃典子 | 議事室主査 | 井上由佳 |
| 事務助手 | 横澤吉和 | | |

◎ 議事日程は、次のとおりである。

令和7年 第5回飯豊町定例会議事日程〔第2号〕

令和7年9月10日

午前10時 開 会

日程第1 一般質問

(議長 屋嶋雅一君) (午前10時00分 開会)

おはようございます。

令和7年第5回飯豊町議会定例会第2日目であります。

本日は傍聴の方も見えられております。早朝から誠にご苦労さまです。傍聴の皆様には、皆様の代表であります議員の質問、意見、提言等の内容をお聞きいただきたいと思います。

ただいまの議員数は10名であります。定足数に達しておりますのでここに成立いたしました。

なお、今日も蒸し暑くなる可能性がありますので、上着は順次脱いでいただいて結構です。

それでは直ちに会議を開きます。本日の会議は、あらかじめお手元に配付しております議事日程により進めてまいります。

《 日程第 1 》

日程第1、一般質問を行います。

本日の質問者は2名であります。質問者並びに答弁者は、要点を整理の上、簡潔にお願いいたします。

それでは質問の通告がありますので、順次発言を許可いたします。

6番 松山和好君。

(6番議員 松山和好君)

おはようございます。

今日は定例会の2日目ということで、昨日に比べて若干緊張感がありませんけれども、私だけ緊張して質問させていただきます。

質問のテーマは、町民の感覚と行政の感覚を一致させるため、私の今後の一般質問のテーマは全てこれで通します。そのうち、今回は第1回目として、飯豊町としての意思決定の手順について質問をいたします。

質問の要旨。今回、私が議員になってみて感じたことは多々ありますが、その中で痛切に感じたことは、町としての意思決定に際しての議論の少なさです。今にして思えば、電池バレー構想計画に対しては、開始前から椿地区の私のみならず、前町長の萩生地区でもほとんどの人が反対意見だったと聞いています。しかし、その後はあたかも既定路線のように実施されました。その後の専門職大学に至っては、開学前から私は開学しても2年で終了するということを予言していました。そのとおり、きっぱりと2年で募集を停止しました。また、貸工場については、本来の目的達成はできないことと、国道側のがけが崩れるということを予告し、その予告どおりに崩れました。別に、私が崩したわけではありません。

一部の人からは、松山は反対意見ばかり言って対案を出さないなどと、ひがみのような声も聞こえてきました。それらの逆風を物ともせず、本日ここに私は立っています。

これら一連の事業に関して議会としてどう動いたのかは、当時私は議員でなかったので分かりません。議会としては、町の政策に関して、本来あるべき方向へ議論を尽くすべきでした。そのようなことを鑑みて、今回のテーマの具体例として、簡単な2つの例を示します。

1つ目は、「いいでの森学園」という名称の問題。もう一つは、脱炭素を目標として掲げたバイオガス発電事業です。まずは「いいでの森学園」という学校名。現町長の選挙演説の中で、このご父兄の皆さんに不評である学校名を再検討するというフレーズがあったはずですが、ご父兄の多くはそれを実行することを望んでいます、いまだにその気配すらありません。これについてどういうお考えを持っているか説明をお願いします。

もう一つは、牛のふん尿を使った発電事業。この事業については、国に申請するかという段階で、議会全体において申請するかどうか決まらないことに業を煮やした当時の議長が、たとえ国の採択があったとしてもその後に取り消すことも可能だし、現にそうなった自治体もあるのだから、取りあえず申請することではどうかという話に乗せられて、取りあえず申請してしまったというのが真相であります。

しかし、その後に審議検討したという事実はありません。ましてや、脱炭素という荒唐無稽なテーマを掲げながら、そのトップに立とうとしている人の話では、脱炭素の効果は定かではないと明言しました。このような状態で事業に邁進してもよいのだろうか。

今回、議事録として残るこの場において、聞きたいことは山ほどあります。町として、事業をこのまま進めようとしているのか、はたまた吟味しようとしているのかを質問いたします。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

おはようございます。9月定例会一般質問2日目どうぞよろしく申し上げます。緊張感は昨日と変わっておりませんので、どうぞよろしくお願いたします。

それでは6番 松山議員の一般質問、町民と行政の感覚の一致のうち、1つ目の義務教育学校の名称についてお答え申し上げます。

義務教育学校の校名については、令和5年12月議会定例会において飯豊町立学校設置条例の一部改正を可決いただき、名称が「いいでの森学園」に決定したものです。令和7年3月議会定例会において、令和8年4月からの開校を延期し、義務教育学校を施設一体型で開校するこ

とをお示しした際に、校名については、開校準備委員会や教育委員会、総合教育会議で熟議、厳選の上、選定されたものであり、議会による議決の重みを十分に認識しているものの、町民から愛される、誇れる校名にするべく、開校時期と併せて検討したいと答弁いたしました。また、令和7年6月定例会において、開校時期を今年中には明確にするとし、開校までの若干の猶予を基に、予算と絡めた施設整備の在り方や校名等に関して様々な条件を勘案しながら、自分なりに検討、整理し、本町義務教育学校の最高の姿を求めていきたいとの答弁をしたところであります。いましばらくの猶予をいただきたいと考えております。

2つ目の脱炭素先行地域事業についてお答え申し上げます。

本町では、2020年にゼロカーボンシティ宣言を行い、脱炭素社会、循環型社会に向けた取組を強化することとしております。また、第5次総合計画や第3次SDGs未来都市計画において、再生可能エネルギー等による創エネ促進、エネルギー消費の改善、気候変動対策の強化、地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入促進を図る目標を立てております。

このたびの脱炭素先行地域事業は、これらの目標達成のための手段であり、地域温暖化による気候変動を抑制し、持続可能な社会を築くことにつながっていくものと考えております。二酸化炭素の削減効果としては、年間約3,800トンの削減を試算しているところであり、脱炭素社会を構築していくために重要な事業であると考えており、着実に事業を進めていきたいと考えております。

以上、私からの答弁とさせていただきます。

(議長 屋嶋雅一君)

松山和好君。

(6番議員 松山和好君)

2回目の再質問します。1回目。民主主義国家の日本には合理性という言葉があります。これは物事が利にかなっているかどうかということです。今、ちまたで、ちまたと言っても主としてご父兄の皆さんですけども、問題になっている「いいでの森学園」という名称については、それ以前に、父兄さんたちが公募に応じて示した名称の中では、たった2人が書いた名称です。この2人については、現在は自宅にいる人たちであろうと言われております。この事実に対して、賛成の意を表明した議員たちも何をかいわんやですが、せっかく嵐町長が誕生したのですから、あしたにも再度検討してもらいたいと思っておりますけども、先ほどの、もうしばらく時間くださいというご本人の意向でしたのでもう少し、もう少し待っていようと思っております。

よく出てくるのは議決の重み云々という話をよく出されたことあるんですけども、国会では

法律も変えますし、外交関係の条例や契約も全部、その都度必要に応じて変えているわけであって、何も飯豊町だけ議決が変えられないと、そのようなことはありません。あくまでも、住民主体で、住民にとっていいことはどんどん町長の英断でやってもらいたいというのが、私の考えです。

とにかく、何しても何につけ吟味することが必要であって、そのためには議会においてもしくは全協において、様々な議員の方から意見を述べてもらうのが最良であると思います。

2つ目の脱炭素についても回答をいただきました。しかし、意味が分かりません。まず、二酸化炭素の削減効果として年間3,800トンという削減ですが、これは、そのまま二酸化炭素の削減なのか、炭素の削減なのか。どちらでしょうか。もし、二酸化炭素の量だとすればその分子量を計算すると、炭素はその11分の3ということになり、1,036トンです。この数字が問題ではないんですけども、脱炭素が目的の事業であるので、第一にエネルギーと酸素の量、そこから出てくるエネルギーと酸素の量を全て同一の単位に換算して、例えば何でもいいですけども、ジュールでもなんでもいいですけども、電気料に換算して差引きどれくらいになるか目星をつけなくてはなりません。これは、例えば、荷物を運ぶために車両を買うっていうので、実際には乗用車を買ってしまった、その逆もあるわけですけども、そういうことに相応すると思います。その目的にかなっているか。それが一番重要であって、どういうふうに使った、誰がするかっていうのはその後の話です。

ましてや、現時点で議会としても何も審議、内容について審議したということはありません。まだまだ、白黒つける時期にはなっていません。このまま進んでしまえば、誰もが知っている電池バレー構想の二の舞になりますが、それでもいいのでしょうか。

この中の質問は、二酸化炭素の削減効果の3,800トンという数字ですけども、それは二酸化炭素の量なのか、炭素の量なのかという質問です。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

松山議員の再質問にお答えをいたします。

まずは、学校のお話から少しお話をしたいなと思いますけれども、決して議会、町長の英断で何ぼでも変えていいという話をいただきましたが、もちろん私がこうだと思ったことで貫くべきところは貫こうとは思っておりますけれども、まずは答弁書でもお答え申し上げましたが、やはりこの開校準備委員会ですとか、教育委員会、総合教育会議というところで、十分に熟慮

を重ねて、その票数とか、そういう人数的なものはちょっと分かりませんが、しっかりと一定の基準に基づいた議論を重ねた上での議会への上程だったと思いますし、そこで議会でも可決されたということは、やはりしっかりとそれは事実として受け止める必要がございますので、以前の定例会でも私お話ししましたが、それを安易に私が町長だからといって、理由はあまり述べずに変えるというのもどうかと思いますし、やっぱり今いろいろお話を聞いてるところでございます。

実際、私、スタジオ嵐ということで、各小中学校にもお邪魔をして小学校は6年生、中学校は3年生でしたけれども、いろいろお話をお聞きしました。その中で校名の話も、子供たちもどういう状況ですかなんていうことで、お話もいただいておりますので、やはりそういう声も聞きながら、最善の判断をしていきたいなと思っておりますし、再三申しておりますけれども、12月で開校時期と併せて校名についても道筋を立てたいと、皆様にご説明したいということでお話をしておりますので、何回も言いますが、もうしばらくちょっと時間をいただきたいなと思っております。

あと、脱炭素の関係でございます。やはり、非常に難しい事業だなということは、私も理解をしております。議会での審議という部分で松山議員からお話がありましたけれども、町としてできる限り、全員協議会なりで専門家の方に入っていただいたり、あとは担当者なり私なりということで、ご説明をさせていただいてると思っております。

そこで、やはり町として取り組んでいくべき事業ですので、そういう中で議会の皆様に、審議まだ終わってないべとか、電池バレーの二の舞になるんじゃないかなということでお話されると、町民の方も不安になりますし、我々執行部としても、もっとう一致団結して一枚岩で進めたいなと思ってる中で、非常につらいなというところがありますので、いろいろ時間はかかると思っておりますけれども、しっかりとご理解いただけるように進めていきたいなと思っておりますので、もし、松山議員はいろいろ難しい中身も知っておりますので、やはりそういうところでご助言をいただいたりとか、ご指導いただきながら、よりよい方法、いい方法で進めていきたいと思っておりますし、やはり環境省でも、これは大事だという事業で取り組んでおります。やはり、選定に当たっても、非常に多くのヒアリングであったりとか、質疑応答を重ねながら申請書を出しておりますので、国としてもしっかりと進めるということでありまして、採択の認証式に際しては環境大臣もお見えになって、しっかりと頑張れよと話をされたので、取り組んでいくべきことだと思っております。3,800トンという話の詳細ありましたので、細谷住民課長から、詳細についてお話をさせていただきたいと思っております。

(議長 屋嶋雅一君)

細谷住民課長。

(住民課長 細谷美佳君)

松山議員の再質問にお答えいたします。

今回示しました3,800トンの削減につきましては、二酸化炭素というところで試算をしておりますところでは。

以上です。

(議長 屋嶋雅一君)

松山和好君。

(6番議員 松山和好君)

じゃ、炭素の量としては1,036トンということで理解しました。そもそもね、誰かがやろうと言わなければ、こういう事業とか始まらないというか、手を挙げて国に申込みしようなんてことにはならないわけですね。そもそも、米沢市と一緒にやろうという段階で、誰がそんなこと、そんなことというか、いいか悪いかも全然分からないんですけども、言い出したのか。それが、私、疑問なんですよね。前の電池バレーですと、単に一人の人がばく進したというので簡単なんですけども、今は存在しないわけであって、誰がそっちのほうに引っ張ったのか。本当にその人はね、責任を持ってやろうと言ったのかどうか。こちらの議員席にもこちらのね、役場の幹部職員の方にも、俺はやりたいなんて明言している人は誰もいないのですよね。そういう状態に置いて世界の嵐町長をしてそういうふうにさせるという、そういう強大な作用がどこから生まれてくるのか。それは、我々、町民から見ると非常に不思議なんです。そもそも誰が言い始めたということ、それがまず一つの質問点なんですけども。

あと普通は、株を発行するにしても新しく会社をつくって募集するにしても、幹事証券会社のほうから目論見書というもの出てくるわけですね。詳細に説明された分厚い本が出てきて、それ見て可能かどうかで皆さん判断するわけなんですけども、今回何もないわけですね。やめるにしても、進むにしても、恐らく誰も今の段階では判断できないと思います。このまま進むのかもしくはちゃんとした説明の場が今後あるのかどうかをお聞かせください。

(議長 屋嶋雅一君)

誰についてっていうのはなくてもよろしいので、理由も含めた形でお願いいたします。町長
嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

ただいまの松山議員の再質問にお答えをいたします。

誰が言い出したのかというのは、私もちょっと分かりませんので明言はできませんけれども、何でこの事業をするのかというところでちょっと考えてみたいと思います。

もともと、飯豊町単独で申請をしまして残念ながら非採択になったと。そういう中で環境省でも、目をつけていただきながら、飯豊町と米沢市の連携事業として取り組んだらどうだということで、第6回目に申請をして採択をいただいたというところが、まず採択に至った経緯だとは思いますが、そもそも何でこの事業だというのは、やはり今、本当に夏は40度を超える天気が続きますし、大雨、大雪、台風ということで本当に異常気象が止まらないということで、これは国連でも話になっておりました国連の中では、やはりこの異常気象というのは地球温暖化が要因だということで明記をしています。

そういう中で、やはりこの世界の温度をまず上昇2度以内に抑えようということで、何とか1.5度で収めようということで、パリ協定なんかにも175の加盟国が賛同して向かっていこうということで、環境問題に取り組んでいこうということでこの事業が立ち上がったものだと、私は理解しておりますし、そういう中でこの飯豊町、米沢市がモデル的に日本で先行地域の100の団体の中で選ばれて、この事業を通して環境問題に取り組んでいけるというのは、非常にうれしいことだな思っております。

そういう中で、もしこれを単費でやろうとすれば、間違いなくできない事業だと思いますし、なかなかこの住民の方へもいろいろ補助等も今回、つくっておりますけれども、そういう部分でもこれは単費であれば、ほぼそのようなお金は流せないような状況であったと思いますので、いろいろメニューの中でバイオガスなんていうことでもありますが、バイオガスはその一つであって、バイオガスとしてやるというところは、飯豊町の基幹産業である農業の畜産という部分の畜産農家さん、そして耕畜連携という部分で昨日もお話ありましたけれども、水稻農家さんも含めて、この事業をやりながら自分たちの基幹産業も持続可能な取組にしていこうという目標もございますので、決して意味のない事業ではないと思っておりますので、何とか進めていきたいなと思っております。

さっき、目論見書の話もありましたけども、ちょっと私もそこまで詳しくありませんので、そういう目論見書的なものがないのはおかしいんじゃないかなんていうのも、ちょっとまだ理解してませんので、その辺はもう少し勉強しながら、もし説明が必要であれば、これからの全協等でまた説明をしなければいけないなと思ったところでございます。

以上です。

(議長 屋嶋雅一君)

松山和好君。

(6番議員 松山和好君)

丁寧なご説明ありがとうございました。仕事をする上でというか、どういうことをするにしても、相手側からエビデンスありますかと聞かれるわけですね。そのエビデンスというのは、いろんな意味合いあるんですけども、ここでいうエビデンスっていうのは、根拠とか、実績とかありますかということと言われるわけです。それに対して、その都度説明したり、これまでの実績を書いたペーパーを渡したりして説明するんですけども。やっぱりね、誰がやってるか分からない、何かほら、そういう状態なものですから、当然そんなものあるわけないですね。まず名前も出せないくらいだから、当然エビデンスなんてあるわけないね。私がね、その電池研究所の失敗を予言したり、大学が開学する前からもう2年で終わるよとか、崖が崩れるよ、何月頃崩れますよなんて、適当に言ってるようですけど、根拠があるわけですよ、根拠あって言ってるわけです。町民としてなぜ不安になるかっていうのは、その根拠がないから不安になるわけです。片や町税とか、水道光熱費払うのもなかなか大変だっていうときに、こんな何十億の事業も何のためらいもなく、やること自体が私は変だと思っんです。

これ、例えばね、国は140兆円かな、使うということになってるんですよ。炭酸ガス対策ですね。140兆円使ってどれくらい効果がありますかっていうのを試算した人もいるんですけども、それが0.0006度、それしか効果がないというわけですね。もう完全にできたとしても、そんな膨大な、気が遠くなるような予算を使ってする必要があるのかと。あともう一つは、それをやろうとしているのが、当然炭酸ガスを出してる国といえ、当然先進国になるわけですけども、炭酸ガスを一番出してる中国もやらない、アメリカもやらない。ロシアもやらない。インドもやらない。何で日本だけそんな真面目にする必要があるのかと。ましてや、八十数%が森林、緑地だと言われている飯豊町で、なぜそんな真面目に取り組む必要があるのか。

何か説明書によりますとね、もうちょっと頑張れば、ゼロカーボンを達成するんだみたいな話を、私、前に何か説明会で見たんですけども、そもそも飯豊町は、白川ダムもあるわけですね。町民が使うためでなくてね。よその人のために発電する施設を、飯豊町につくらせてるわけです。それを含めれば何もゼロカーボンどうのこうのって心配する必要ないわけですね。たしか、あそこには白川ダムは入ってなかったと思うんですよ。あとは畑と水田ね。畑にしろ、水田にしろ、ここは雪降るもんですから、葉っぱの生い茂る夏場主体であって、冬は何もないわけです。大体もう収穫し終わってそこには植物はないわけですし、植物というと普通は炭酸

ガス吸って酸素を出すって、そういうふうに今言われてますけども、正確ではないわけですね。ある一定の量は人間同様、酸素を吸って炭酸ガス出してるんですよ。ただ、春夏秋に関して、葉っぱのあるうちですと、その量が、その量よりも酸素を出す量が多いもんですから、酸素を出すということで今言われてますけども、畑と田んぼはね、炭酸ガスを吸収して酸素を出す期間だけあって、都合のいいことに冬はないとね。まさに、これなんて本当炭酸ガスの吸収だけのためにあるみたいなもんで、それを加えれば、それ加えなくてもあれですけども、それを加えれば全く日本でも模範的な自治体であって、何も危ない橋を渡る必要もないかなというのが私の疑問です。

(議長 屋嶋雅一君)

松山君に申し上げます。発言は要点を整理の上簡潔にお願いします。

(6番議員 松山和好君)

そういうふうに白川ダムの発電量まで考えたことがあるのかどうか。あえてそれを無視して、さもうちちょっとで頑張れば何とかなるっていう資料を作ったのか。それをお聞きします。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

松山議員の再質問にお答えをいたします。

白川ダムの発電量の絡みはちょっと私も調べてませんので、お答えができませんけれども、何で飯豊町でやる必要あるんだという話だったので、少しお話をしたいなと思います。

やっぱり本当に、二酸化炭素を出している中国とかアメリカがしなくて、飯豊町のような大した炭素も出さないようなところが取り組むというところでは、納得いかないという話だと思いますけれども、さっきも言いましたけども、この地球温暖化というところに町としてアクションを起こすという部分で、この脱炭素先行地域事業に手を挙げているというところもありますし、実際、採択になっておりますので、まずは町としてもう走っていくということを決めたというところをご理解いただきたいなと思います。

やはり、いろんな個人的なご意見もありますし、統計上とか科学上から見ても、ちょっと納得いかないという部分は、松山議員、様々お知りですので、突っ込みたいところはいっぱいあるかなと思いますけれども、やはりまずは町としてやっていくということを決めましたので、何とかそれに議員の皆さんのお力もいただきたいと思いますし、これから町民説明会、少し遅くなっていて申し訳ございませんけれども、町民説明会を開きながら、町民の方にもしっかりと

ご説明をして、多分松山議員のようなご意見、たくさんいただくと思います。そういう中でしっかり納得をしていただきながら、この事業、飯豊町を挙げて進めていきたいなと思っておりますので、何とかご理解をいただきたいということしか言えませんが、松山議員にはこれからもご指導とご理解をいただきたいなということを申し上げたいと思います。

(議長 屋嶋雅一君)

松山和好君。

(6番議員 松山和好君)

特に行政関係の方がお使いになる言葉が、ご理解とかね、という言葉よく使われるんですけどね。ただ、理解の字のとおりね、理を解することなんですよね。相手の言ってることの理を解する。ただ、理がないものは解しようないわけですよ。もともとないんだからね。例えばね、まんじゅう食べておいしいでしょう。食べればおいしいですけども。ないもの食べておいしいですよなんて、言えないのと一緒で。

そういう意味で、私どもは反対はしませんけども、賛成する材料がない。ましてや、議員としての立場なものですからね。自分が理解できないものを人に理解させることはできないわけです、はっきり言ってね。

だから、この件についてはちゃんとした根拠が出るまでには、私個人としては、どちらでもないというね、そういう立場しかしようがないわけです。

また、この環境云々についてはいろんなデマというか、ごまかしがあるわけですよ。例えば、数年前ですと、北欧の国々は例えばスウェーデンとかデンマークとか、あの辺ですと7割くらいの車が全部EVだったという時期もあるわけですよ。そんなことはないわけです。それで炭酸ガスが減ることないわけですよ。逆に増えているわけですよ。それ長々としゃべるとまたちょっと質問長過ぎるということで、ストップかかるものですから言わないですけども、一番いいのは、松田のスカイアクティブディーゼル、これしかないわけです、実際ね。私の乗っている車だったんですけども、今はもうないものですから、もう処分したものですから。私はその肩を持つわけでもないです。何も肩持つわけでもないですけども、それしかないわけです。EVにすれば、逆に炭酸ガスも増えるよね。ただそれ、そこまでは誰も発表しないわけですよ。ごく一部しか。

それで右往左往してるのが実社会であって、本当に吟味しなさい、ね。確かに情報入れてもいいですけども、その情報の本当かどうかね、裏取りというか、そういうことをしないと。どうしても間違った行動をしやすいということになるものですから、そういう意味ではね、今の

段階では、町としては町長が真面目な性格で人を信じやすいものですから。そういうこともあって、あんまり吟味もしないわけですよ。今後は誰か担当決めて、必ず裏取りをするようにお願いしたいと思います。

あと、何でこんなこと言ってるか。結局は、最後はね、借金出てくるわけですよ、それで電池バレーもそうですけども、結局大学にやった3億5,000万円を国に返さなくちゃなんね。そのように契約、大学との契約どうなってっか分かりませんが、相手はもう絶対もう返さないですよ。結局は、町民のための税金から出すしかないわけですよ。クリニックもそうですけどもね、あんな貸した金なんか返ってくるわけじゃないですよ。

だからとにかく、何か始める前は、結局全員、関係者、議員含めて審議、検討、吟味しないともう簡単にやられちゃうよってということで、そういう今後体制をつくってもらいたいですけども、どうでしょうか。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

松山議員の再質問にお答えをいたします。

吟味、私のことをお褒めいただきましてありがとうございます。人を信じやすいということでありましたけれども、信じやすいというわけじゃなくて、ちゃんと話を聞いて決めているつもりもございまして、言われたままには、はいと言ってるつもりはございませんのでご理解、分かっていたきたいなと思います。

今回、脱炭素、ちょっとまた話を戻しますけども、しっかりとまず米沢と飯豊という部分があって、飯豊だけでやるわけでもないですし、米沢が走るだけではないということで、飯豊と米沢が連携してまず行うということで、この事業進めてまいります。その中では、本当に環境省のスケジュール管理が非常に厳しくて月1回とか報告、今の進捗報告とか、あとは環境省の担当の方も交えての打合せ会議等もございまして、やり始めてただ月日がたつのを待ってるだけでなく、ちゃんとプロセスを踏んで前に進んでいきたいなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいなと思っております。

あと今、大学の話もちよっと出ましたけれども、この脱炭素の関係については、まずは補助金と、それに伴って共同提案者の方が複数いらっしゃいますけれども、誰が事業するのかというのはこれから決定する話ですが、事業者の方の自己資金というか、企業資金によって進めるということで、補助事業ですので若干の補助該当しない部分の何十万円とか、端数の部分のお

金なんてのは少し、雑費として町の一般会計から出るお金もあるかもしれませんが、ほぼ一般会計からの支出ってのは考えておりませんので、町民の皆さんの税金を湯水のごとく投入をしてなんていう考えはさらさらございませんし、皆さんにも税金は極力投入せず、補助金と事業者資金でこの事業を行いたいという説明をしておりますので、そこは注視していただければなと思います。

あと、専門職大学の3.5億円ということで、地方創生のお金の話も出ましたけれども、これについては、しっかり返還していただく必要がございますので、飯豊町で指をくわえて払うわけではなくて、しっかり今の事業者の方、大学の運営者の方に、やめるのであれば今、現状の減価償却分を除いた分の国からの返還要請に応じた額は、大学の法人側に支出をしていただきたいという話は、今もってしておりますので、その辺は町が払うつもりはさらさらございません。

あとさゆりクリニックに関しても、今クリニックには医療系のコンサルタントさんにも関わっていただきながら、私もお会いしてお話をして、町の思いも伝えました。その中ではしっかり収益を上げるような経営をしながら、町の貸付金についても計画を持って返済をしていくということで、お話を伺っておりますので、まずは町としてはしっかりと補助、貸付金としてお貸しした部分は、計画に基づいて町の歳入に返していただくということで考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(議長 屋嶋雅一君)

質問については、聞きたい内容をまとめて簡潔にお願いいたします。松山和好君。

(6番議員 松山和好君)

昨日の遠藤芳昭議員の質問の答弁として、町長ね、いいことを言ったんですよね。議員の皆さんの理解を得て予算化するという話というか、そういう文言がありました。まさに、そうあるべきで、これはすばらしいことであって、まさにけだし名言ですかね。別の議員から出た何々口という話も、あれもなかなか時代性があっていい話でしたけども、この町長の話はそれ以上にいい話でしたね。

にもかかわらず、その理解が得る前にいろいろ進んでいるわけですよ。補正予算なんか見てもそうですけども。ですから、補正予算にしる何にしる、それを書面にする前に議会に一言、相談することがあってもいいのではないかと、私は思ってます。それは、町長が直接やってもいいですし、担当課長からあってもいいですし。ぽんと出されてもなかなか答えるのも大変なものですから。いつもここでこういうふうに、当局側である程度決めてから、半ば決まってか

ら議会に出すというのは、これは以前からの方法ですか。それとも、前町長からですかね。お聞かせします。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

ただいまの松山議員の再質問にお答えをします。

多分、前にも全協の場とかでも、こういう話題になったかなと思います。この流れは誰から始まったんだという話はちょっと置いといてですけども、例えば町の事業をゼロから100まで100個ある中で、全部1個1個、議会の皆さんの、例えば全協を毎回開いていただいて、これをします、これをしますということでお話をさせていただくというのは、なかなか現実的ではないですし、多分議員の皆さんもそんなもの自分たちで考えてやれということで、多分言いたい部分もあると思います。ですので、やはり脱炭素の部分も多分ご説明をしたと思いますけども、大きい事業とか本当に町を挙げて取り組むべきこととか、あとは予算が絡む、大きく金額が絡むものとか、本当に一体となって進める、あとは町として取り組んでいく一大プロジェクト的なものとか、そういう部分はしっかりご説明をしていたはずだと思いますし、私もしっかり説明をしながら、いきなりこう補正予算でばあんって出したりとか、いきなりこの議会の場に上程をするというのができないと思っておりますので、そこは前にも全協でも話題にさせていただいておりますし、やはり当局としてしっかり準備をしたものを見ていただくというところがあると思います。

それを毎回、小っちゃい事業もしていいですかなんていうような議論をする場では、議会はないなと思っておりますので、そこは議会の思いという部分もあるとは思いますが、町の考えの中でやらせていただきたいなという部分もあります。

逆にどの程度というのは変ですけども、これぐらいの事業であればまず議会に話もらいたいとか、あとは例えばこういう、金額ではどうかと思いますけれども、町としての考えとして話してもらいたいことは、例えばこういうことがあるよなんていうことで、毎回全協とか、議運なんかでもいいですけども、お話をいただければ、そこはしっかり準備をして臨むようにしますので、お願いをしたいなと思います。

(議長 屋嶋雅一君)

松山和好君。

(6番議員 松山和好君)

幸いにも、飯豊町の議員は皆さん、町から配付されているタブレットあるものですから、そこに上げてもらって、何か一言ある人だけまた返信するというか、それでもいいと思うんです。一々集まると大変なものですから、その程度のことはしてもらいたいし、金額的に幾らっ
ていえばそれは公金でもあるので、できれば100万円以上は、そのような投げかけがあってもいいのかなと思います。

私も仕事でいろんな会社の代理人として、仙台に行ったり庄内行ったりするんですけども、会社によって違うんですね。50万円以下の場合はその場で決裁してもいいよと。ある会社の場合ですと5億円でも10億円でもいいからその場で決めてくれみたいな、そういう会社もあります。でも、公金なものですからそうはいかないんですから、100万円程度超えれば、何かしらの問いかけしてもらいたいと思ってますけども、これはすぐにでもできると思いますけども、どうでしょうか。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

松山議員の再質問にお答えします。

今、具体的に100万円以上とありましたので、町のほうでも、ちょっと私だけの一存で決めませんので、管理職会等でも諮りながら、そしてあと議会の事務局とも話しながら、どのような対応ができるか、回答をまた申し上げたいと思います。

(議長 屋嶋雅一君)

松山和好君。

(6番議員 松山和好君)

了解しました。必ず100万円でなくてもいいですから、そういうことをするというのをちょっと考えてもらいたいと思います。

話を変えまして、さきの全協で、中学校の増築に関してプレハブでは悪いのかということで、教育長とちょっとご相談させてもらったことがありました。私が心配しているのは、建設費もそうですけども、そのあとの取壊しの費用です。通告ないのか。通告は、そうか、分かりました。次回に回します。

町役場の決定、毎日毎日様々ことを決定されているはずなんですけどもね。それについては、特にできる限り透明性を持って行ってもらいたいというのが、私、議員、皆さん誰しも議員はそう思ってるはずです。その根底にあるのは、やっぱり人口は減る一方で、それに反して、町

が管理する施設はだんだん増えてくる一方なわけです。施設も増えれば当然メンテナンスも増えると。恐らく、これからはもうメンテナンスさえもできなくなると思います。そうすれば、最後は町民、本来町民サービスに使うべき予算を削って、そちらに充てると。そうならざるを得ないわけです。

今、日本は、日本全体ですけども、二極化しているような感じで、結局は一番声の小さい方が損をすると、そういう社会になってるもんですから、そういう、町民としては、そんな、極力無駄を省いてもらいたいというのが思ってます。これは、通告書にも合致するよね。町民の感覚と行政の感覚を一致させるということだね。

最後は皆、町民のというか、本来町民に使われるべき金から尻拭いさせられてるのが現実なわけです。今後とも、なかなか黙っている人は何考えてるかってね、一般の町民は何を思ってるか。それを考えてやってもらいたいと思います。

嵐町長には、せっかく町長になってもらったんだから、もう二十年、三十年もそのまま、そのままやってもらって、いろんな経験を積んですばらしい町政を行ってもらいたいと思ってるがゆえに、こういう苦言を言わせてもらいますけども、今後ともよろしくお願いします。

以上で私の質問は終わります。

(議長 屋嶋雅一君)

答弁は要らないですか。

(6番議員 松山和好君)

要らないです。

(議長 屋嶋雅一君)

以上で、6番 松山和好君の一般質問は終わりました。

次に、2番 島貫寿雄君。

(2番議員 島貫寿雄君)

定例会一般質問のラストバッター2番 島貫寿雄です。先ほどの松山議員のようにちょっと楽しい質問ができるかどうか心配ですが、松山議員もネクタイをしまして、私もネクタイをしております。昨日の5人はノーネクタイでしたが、これは私がこの暑い中、ネクタイ正装している嵐町長に対する敬意を表してのネクタイであります。松山君と示し合わせたわけではありませんので、2人が非常に仲がいいって話ありますが、あまり誤解しないようにしていただきたいと思います。

今回は1番バッターを目指しましたが、3番議員の遠藤純雄君に早々と一番乗りをされてし

まいりましたので、もう諦めて今回はラストを務めることにいたしました。遠藤純雄議員が受付されたのが8月7日、私は8月25日です。この18日間、また8月7日からはや1か月以上たち、世の中が大きく変わりました。我が飯豊町も静かに変わっている様子があります。18日間で、私の質問も何度も大きく変わりました。逆に、今回ラストバッターでよかったと思って、この質問をつくっております。

昨年の今頃は、9月定例会が終わればいよいよ町長選挙というムードでした。嵐町長は就任10か月目ですが、議会のサイクルからいうと4度目の定例会ということで、1年とも言えます。全く時間のたつのは早く、もう1年だと、嵐町長を厳しく見ている町民、特に若い人が多々おることを、町長は感じていただきたいと思います。

一方、嵐町長を見ておりますと、答弁や自らの発言も堂々とされ、就任当初からの成長を感じるこの頃です。翻って70歳を超えた私は、心身の老齢化を認めざるを得ません。しかし、若さのすばらしさをうらやましく思うだけでなく、年相応のありようで今日の一般質問に入りますので、嵐町長、よろしく願いいたします。

今回は、今回も四つの質問を用意いたしました。タイトルを見ますと、全て違うようになっておると、皆さん思われると思いますが、私の中ではこれ全て、根っこのほうではリンクしております。

その1番目、現状の飯豊町に財政が厳しいこと以外に足りないのは何か。

要旨として、町としてご自身としても足りないものを自覚し、改善することが、問題解決につながると思われまます。今の飯豊町に足りないものは当然財政、お金だと思いますが、お金だけではなく、まずは政治家の覚悟、町長や教育長だけではなく、我々町会議員も含めてです。必要で、そのことが町民から問われる時代ではないでしょうか。

財政の問題について、嵐町長はふるさと納税の税収増を挙げておられますが、それだけで大きな成果が達成できると確信されておるのでしょうか。新たな返礼品ができたりしていますが、より具体的な効果等をお示しく下さい。

一方で限られた財源、大きな財源増が見込まれないときに、身を切る改革に取り組む考えはないでしょうか。政治家には度々政治家の覚悟が求められることがあると思います。財政難、町の将来を担う子供たちに大きく関わる義務教育学校の建設、前任者からの引継ぎの難題ではありますが、今お金ばかりではなく、まさに政治家の覚悟が問われるときだと思えます。町民から負託された期待にどう応えていくのかをお答えいただきたいと思います。

2番目、行政運営に当たり、お手本となる人物、お手本となる自治体は具体的にあるかお聞

きいたします。

要旨として、嵐町長は、若手首長等の交流、お付き合いが多いと思われませんが、その中やそれ以外の方で、自分がお手本としたり目標とする方、また自治体があるのでしょうか。公約の「暮らし満足度No.1」のまちづくりに取り組む際、見習う自治体とは、具体的にありますか。人はとかくよいもの、よい地域を目標にしますが、逆に飯豊よりも苛酷な環境、条件の悪い自治体、その住民からも学ぶことが多々あると思います。そのことによって我々地元のよさの再確認ができるわけで、そのことが暮らし満足度の具体性をつくり上げるのではないのでしょうか。

あと3番目、今問われる教育委員会の重要な役目、教育長としての使命は。

要旨として、義務教育学校という大きな課題の事業を途中から担っての教育長の日々の仕事に敬意を払い、また期待しております。人それぞれの考え方があると思いますが、人生は人との出会いで大きく変わることがあります。特に、学びの段階、小学校、中学校での教師との出会いは少年少女の将来に大きな影響を与えます。教師も生徒も相手を選ばません。だからこそ、教師の人間力、教師の人間性が問われます。

世の中には多くの職業があります。その中で、多くの人間の人生に影響を与える職業は教師です。自分の意思に関わらず異動を伴う職業ですが、飯豊町に勤めているときは、飯豊町の目指す教育理念に基づき、教師としての姿勢の前に一人の人間として研さんを積み、少年少女の未来への夢や希望を養ってほしいと考えます。教師としてのスキルの向上はもちろん、飯豊町教育委員会として、どのような人間力を醸成していかれるのかをお聞きしたいと思います。

親という言葉が普通に使っていますが、親とは何だろうかとよく考えてきました。親という資格はありません。結婚して子供に恵まれて初めて親になります。どんなにすばらしい人でも、子供さんがいなければ、残念ながら親にはなれません。その真逆もあります。親は子供のために勉強しなければ、子供のためにはなりません。この数年、義務教育学校のことだけが注目され、時間が取られてきました。町も教育委員会も、親世代の研修にも目を向けるべきではないでしょうか。

4番目、過疎という言葉から受けるイメージは。

過疎債とは広く町民も知っていて使う言葉ですが、ただ過疎という言葉は最近あまり使われなくなりました。代わりに、限界集落という言葉が使われます。飯豊町はずっと数十年、過疎の町と言われてきました。過疎地域では、人口減少とともに高齢化が大きな問題です。しかし、飯豊町は過疎化の定義の人口が減少した結果、この地域での日常生活や生産活動が一定レベル

を維持することが困難とまでは至ってないと思います。

大都会を除けば、日本中過疎です。過疎とは人口が減ることだけではないと思います。意欲のある人、様々な経験、知識を身につけ、見識を持った人間がいづらくなる、帰ってきづらくなる風土が、本当の過疎ではないでしょうか。町で委嘱する様々な委員や役員は、どのような基準を重要視し、人物や持っているその人物を、ソフト面を十分に考慮され任命されているのか。町のイエスマンだけでは駄目だと考えますが、お聞きしたいと思います。

様々な事業に取り組む際、特に大きなプロジェクトに取り組む際に発生する異なる意見、庁内の異見、議会の異見、そしてより大切な町民の異見をどのように捉え、また吸い上げ、結果に結びつけていくのか。町長選挙の際の公約の見直し等も鑑み、より多くの町民の賛同と、町全体のモチベーションを上げる嵐町長の政治姿勢をお聞きしたいと思います。

以上、4点よろしくお聞きしたいと思います。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

ただいまは、2番島貫議員より、間もなく1年がたとうとしてる私に対しまして、叱咤激励をいただきました。本当にありがとうございます。初心忘れず頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

それでは、2番島貫議員の一般質問、1点目、現状の飯豊町、財政以外で足りないものは何かについてお答え申し上げます。

昨年11月、多くの町民の皆様からご支援をいただいて町長に就任し、10か月が経過をいたしました。町の発展と町民の幸せを最優先に考えながら、一日一日を大切にして町政運営に当たってまいりましたが、本当にあっという間だったなという感覚であります。

さて、島貫議員からご指摘いただいたように、町の財政は厳しい状況に置かれていますが、国や県の交付金、そして補助金のさらなる活用、企業版を含めたふるさと納税の増収など、知恵や工夫、情報収集などにより、財政健全化に向けて取り組めることはあります。

その一つ、ふるさと納税制度は、個人が応援したい自治体に寄附を行うことで住民税などの税負担を軽減する仕組みとして、平成20年に開始されました。7月、総務省から公表されたふるさと納税に関する現況調査結果によりますと、全国自治体の受入れ額は、制度開始当初の約81億円から令和6年度の約1兆2,700億円へ大幅に増加しております。このうち、山形県と35市町村に寄附された総額は約450億円、前年度より約23億円増えて過去最高となるなどふるさ

と納税は、本町を含め全国の自治体で財源確保の貴重な手段となっております。

しかしながら、本町の実績を見ますと、ここ数年の寄附金受入れ額は約1億4,000万円の横ばいで推移しており、寄附金受入れ額増加に向けては、魅力ある返礼品の開発やポータルサイト等を通じた効果的なプロモーションの実施が必要不可欠であります。そのため、今年度からふるさと納税に関する専門的知見を有する民間事業者にも業務の一部を委託し、町内事業者と連携した新規返礼品の開拓や、既存品の磨き上げ、首都圏などの寄附者ニーズに即した訴求力のある商品開発やシティプロモーション等の取組を強化しているところです。

今後は、飯豊町の強みである米沢牛や飯豊産米など豊かな地域産品をさらに磨き上げ、戦略的に発信することで、寄附金の受入れ拡大を図りたいと考えております。こうした取組により、ふるさと納税を単なる一時的な収入増にとどめることなく、持続可能な財政運営に資する安定的な財源の確保につなげてまいります。

また、限られた財源、大きな財源増が見込めない中での義務教育学校の建設について、島貫議員から政治家の覚悟、身を切る改革を問われました。このような状況において、政治家に求められるのは覚悟ある決断だと思います。一時的に住民の不満や反発を受けても、将来の世代のために責任ある行動を取る覚悟が、政治家には求められると考えております。覚悟ある政治家が町の未来を変えることができるという事実です。人気取りではなく、町の持続可能性を本気で考えるリーダーこそが、真に尊敬されるべき政治家であると思います。一時の恩恵や心地よい言葉に惑わされず、長期的な視点に立ち町政を判断することを心がけ、実践しております。

政治家とは未来への責任です。誰かが痛みを引き受け、誰かが批判を受ける。その先にしか、本当の改革も希望ある未来もありません。町民から負託された期待に応えることができるよう、自分の信念を大切にしながら、「暮らし満足度No.1」のまち実現に向けて、町民のため、豊かな未来をつくるために覚悟と責任を持って決断し、一つ一つ課題を解決してまいります。

2点目、行政運営に当たり、手本とする人物や自治体があるかについてお答えします。

東京一極集中が加速する中でも、町の総合計画に掲げた基本理念「やっぱり飯豊で幸せになる」そして「暮らし満足度No.1」のまちを実現するには、行政だけではなく、町民の皆様や地域で活動する団体、企業など本町に関わる多くの皆様と、課題と目指すべき将来像を共有し、同じ思いでまちづくりを進めていく必要があります。

手本とする人物を特定することは避けませんが、新聞やメディアから最新のニュースや地域の問題を情報収集したり、全国若手町村長会に参画し意見交換や勉強会をしたりしながら、同じ

課題を抱える他自治体の取組を参考として、まちの活性化につなげたいと考えております。

具体的に申し上げますと、災害で被災した米坂線復旧に向けて、福島県の只見線や福岡県と大分県を走る日田彦山線の復旧状況を確認することにより、課題整理につなげているほか、これから視察を実施したいと調整しているのが茨城県境町で、移住定住政策や高齢者や交通弱者対策に力を入れている自治体です。そのほかにも、本町は東北SDGs未来都市や「日本で最も美しい村」連合に加盟しておりますので、先駆的な取組をヒントに、飯豊町に適する形に変えた施策を展開し、そこから生まれる経済効果が新たな施策の実現につながる好循環を生み出していきたいと考えております。

4点目の過疎という言葉から受けるイメージについてお答えいたします。

総務省は、令和13年3月31日までの時限立法である過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法において、過疎地域を「人口の著しい減少に伴って地域社会における活力が低下し、生産機能及び生活環境の整備等がほかの地域に比較して低位にある地域」と定義しています。人口減少率及び財政力指数などの要件に基づき、令和4年4月1日時点で1,718のうち半数以上の885市町村が過疎地域とされております。仕事や進学を選択肢を求めて、若者世代が都市部へと流出する傾向が強く、労働人口の減少や地域経済の縮小、伝統文化の衰退のほか、財政の悪化によりインフラ整備や医療、地域交通などの公共サービスの維持も困難になりつつあることが、地域の魅力を低下させ、さらなる人口減少へとつながる負のスパイラルを引き起こすとされております。

地方の人口減少には、複数の要因が複雑に絡み合っており、解決のための特効薬はありません。東京一極集中を是正するため、地方創生が叫ばれて約10年が経過しました。町でも、飯豊町過疎地域持続的発展計画を策定し、人材の確保及び育成、雇用機会の拡充、住民福祉の向上、地域格差の是正及び美しく風格ある国土の形成に寄与する過疎対策事業債を活用しながら実施しているところであります。

町で委嘱する様々な委員や役員は、多くの場合、業務内容に必要な専門知識など求める能力や経験があるか、依頼する業務の性質や期間に柔軟に対応できるかなどを判断材料として、年齢、性別、地域バランスを考慮しながら、地域からの推薦や公募により決定しております。私は、「暮らし満足度No.1」のまちづくりを掲げて、子供世代から高齢者の方まで幅広い世代、年代の声が集まる、親近感ある町政運営を目指しております。ご意見を頂戴するためには、まず情報をお届けすることが必要であると考えておりますので、町の施策については「広報いいで」、公式LINE、ホームページを活用し、丁寧な情報発信を心がけてまいります。また、

町で委嘱する様々な委員会等にお諮りするほか、スタジオ嵐や地域づくり座談会など、多様な場を設け、住民の皆様から広くご意見をお聞きし、幸せに安心して暮らせる明るい未来に向かって、これからの政策の意思決定に反映させてまいります。

議会は、住民の代表として地域や住民の多様な意見を把握し、合意形成を図りながら議会としての団体意思を決定し、行政は、議会の議決に基づいて住民の意思を実現するため、具体的な政策の実現や事業事務を執行するという役割分担の下、共に地域の課題解決に取り組むパートナーであります。異なる意見はあつてしかるべきものですので、議会の皆様との議論を通じて、よりよい町政運営を行ってまいります。

そのほか、教育委員会などに関する質問は教育長から答弁させていただき、以上、私からの答弁とさせていただきます。

(議長 屋嶋雅一君)

教育長 菅原 透君。

(教育長 菅原 透君)

ただいま、2番島貫議員からは温かい励ましのお言葉をいただきました。その思いを受けて教育長の務め、一生懸命頑張ってまいりたいと思います。

それでは、一般質問3点目、今問われる教育委員会の重要な役目、教育長としての使命についてお答えいたします。

社会情勢が複雑化し、価値観が多様化する世の中にあつて、教育の在り方も様々な観点から見詰め直す時期に入っております。それを踏まえ、町教育委員会としましては町民の学びを活性化し、次代を担う人材育成と町民の生きがいがづくりを進めていく必要があります。

学校教育では、義務教育学校開校という大きな目標に向けて、令和の日本型学校教育の個別最適な学びと協働的な学びを基に、町の子供をそれぞれの学校種が一貫して育てる仕組みを充実させなくてはなりません。社会教育では、生涯学習、生涯スポーツの観点から、様々な趣味や文化、スポーツが愛好できる多様な場を保障しなくてはなりません。

各世代において学ぶ楽しさを実感いただき、自己の確立と自尊感情の高揚、加えて飯豊町に生まれてよかったと思える郷土愛の醸成が重要な役目であると考えます。

教師の人間力醸成に向けては、自身のモットーや入学式町長祝辞のキーワードを基に、飯豊町で目指す教師の姿を伝えたり、校長会などで職員育成の方向性を共有したりしております。教員採用試験に合格すれば、教師として教壇に立ちますが、その後の研さんの積み上げにより本物の教師になっていくと考えます。親もまたしかりで、子供の健全な育成には愛着が不可欠

であり、それができる温かな関わりを啓発していかなければなりません。

個の学びと同様に、互いがつながり、助け合いながら伸びていく環境づくりも必要です。それを達成するため、町民の学びを充実させ活力ある人を生み、勢いあるまちづくりにつなぐことに誠心誠意努めることが、教育長としての使命であると考えております。

4点目、過疎という言葉から受けるイメージについてお答えします。

過疎は、人口減少と地域社会の活力減退から、地域機能や生活環境などが低下している状態と理解しています。しかし、私が思い浮かべた光景は、穏やかな緩やかな時が流れ、伝統に基づいた地域文化がある自然豊かな農山村でした。人は情に厚く、地域を愛している。人は少なくなっているものの、住む人の思いは温かく太い絆がある。これは、私が若い頃お世話になった中津川地区に重なっているのかもしれませんが、それを言うならば、過疎ではなく僻地なのかもしれません。人が少なくなり、若干の不便が生じて、互いにつながり故郷への熱い思いを抱く人が住むところは過疎ではありませんし、それを考えると、飯豊町には過疎というイメージはそぐわないとも言えます。学び、集い、創る、そのような教育を進め、人の活力を生み出す役割が教育委員会に求められているとも感じております。

以上、私からの答弁とさせていただきます。

(議長 屋嶋雅一君)

島貫寿雄君。

(2番議員 島貫寿雄君)

ただいまは、町長及び教育長にはご丁寧なご答弁をいただき、誠にありがとうございました。私の質問に真摯に受け止めていただいた思いが伝わっております。私は欲張りなので、本当は一般質問、二、三時間いただきたいのですが、そうもいきませんので、この四つの質問を何とか時間内で終えるように努めていきたいと思っております。

まず、ふるさと納税について。今、返礼品はやはり米が多いように思います。また川西町と当町で三菱鉛筆さんとのボールペンと24色入りの色鉛筆を返礼品に加えるということですが、町長は、大人のやる気ペンというものをご存じでしょうか。これは今年、文房具総選挙大賞を受賞した商品です。ボールペンに白いデバイスをくっつけるだけで、大人の方々の学習習慣をサポートして、勉強を続けたいくなるという商品です、値段は9,900円ですが、かなり売れているようです。

既存の商品を採用するのもよいと思いますが、どんなボールペンがあったらいいかというコンテストを日本中にぶち上げて、マスコミに取り上げていただき、町の知名度を上げ、その最

優秀賞をいただいたアイデアを商品化して、飯豊町だけのオリジナルのボールペンを開発するような発想を持つてはいかがでしょうか。それぐらいやらなければ、ほかの市町村とのふるさと納税の差別化は図れないと思いますが、町長はいかがでしょうか。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

ただいまの島貫議員の再質問にお答えをします。

大人のやる気ペン、初めて知りました。コクヨですかね。ありがとうございます。ちょっと勉強したいと思います。そして町の独自のペンという話もありましたけども、先ほどの島貫議員からも発言ありましたが、三菱鉛筆さんが貸工場で操業をなされたということで、飯豊町で鉛筆、そして川西町にある工場ではボールペンということで、先日、相互のふるさと納税の返礼品ということで協定を結ばせていただきました。

そのときに私も取材等で回答申し上げましたが、やっぱりこの文具という部分をコアなファンがいるということも聞いておりますし、文具の何かフォロワーさんが多いインフルエンサーさんもいるなんていうことで、文具を使ったまちづくりなんていうのが一つあるんでないかなんていうことで、お話をさせていただきました。ぜひ、今お話、提案あったような文具コンテストみたいなもの開催しながら、例えばそれを三菱鉛筆さんで形にしてもらおうとか、そういう部分を含めながら、新しい返礼品として採用できるものができたらいいなと思いますので、貴重な材料として温めたいなと思いました。

以上です。

(議長 屋嶋雅一君)

島貫寿雄君。

(2番議員 島貫寿雄君)

ぜひ取り組んでいただきたいと思います。それでは再質問の2番目で、政治家の覚悟について、先ほどご答弁いただきました。嵐町長の覚悟が感じられる答弁だったと思います。財政も枯渇し、町長に覚悟がなければ大変な状態の飯豊町です。

よく財政、財界人を取るアンケートがあります。生まれ変わったら今度はどんな仕事をしたいかというものです。圧倒的に多いのはプロ野球の監督だそうです。与えられた1軍、2軍、3軍、総勢100名ぐらいの選手を使って試合をしていきます。すぐに結果が出るのがいいそうです。大企業ではなかなかそうはいきません。そして、なりたくても日本ではどう頑張っても

たった12人しかありません。これは大変なことです。だからこそやってみたいというのが、財界人のアンケート調査です。

飯豊町長はどうでしょうか。6,000人の町民がいても、たった1人しか町長にはなれません。首長は居住義務がありませんので、大げさに言えば、数千万人の中でたった1人選ばれた町長が嵐 正人町長です。よって、それだけの責任があり、時に大きな決断を迫られます。言葉は悪いかもかもしれませんが、政治は、いい意味でけんかです。それくらいの気概がなければ、私もこの場所にはおりません。時の石破総理が、もう仕事の話はやめましょう、疲れますから、大統領や総理大臣やっておりますと、あんまり楽しいことはございませんと発言し、物議を醸しましたが、嵐町長におかれては、町長職は楽しいでしょうか。私は楽しい町の楽しい町長に嵐町長になってほしいと思っていますが、町長、いかがでしょうか。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

ただいまの島貫議員の再質問にお答えをします。

本当に就任をさせていただいて10か月ということで、先ほど答弁もしましたけどもあつという間だったなと思っております。今、島貫議員言われましたけども、数千万人の中の1人だということを考えると、本当に皆さんのご支援とご理解をいただいてこの場に立っているということを、改めて感謝申し上げたいと思っております。

楽しいかどうかと聞かれますと、楽しいというところとちょっと語弊があるかもしれませんが、いろいろな方のお話を聞いてそれを形にできるという職務をさせていただいていることという事は、本当にありがたいというか、やりがいを感じております。先ほどもちょっとお話ししましたけども、例えばスタジオ嵐ということで、町長室なんかにはたくさんの方に来ていただいて、いろいろな話を聞かせていただきます。そういうときに、町長室ってこんなとこだったんかなんていうこと言われればうれしいですし、こんな気軽に入らっちなあななんていうことで、町民の方に言われれば、私も楽しくなるというところもあります。そしてあと、出張ということで町政会ですとか学校のほうにも行ったりもしますけれども、やっぱりわざわざ町長に来てもらってなんていうことで、本当に身構える町民の皆さんいらっしゃいますけれども、私はそうでなくてやはりいつでも呼べば来るという身近な存在になりたいなと思っておりますし、そういうことを通して一緒に楽しい町に、先ほど議員もおっしゃいましたけども、楽しい町、活力ある町にしていきたいなと思っておりますので、やっぱり私が下を向いたりつまらない顔

をしていれば、町もつまらない雰囲気になるなどは感じておりますので、つらいときも笑っていただけるような人間でいたいなと思っております。

(議長 屋嶋雅一君)

島貫寿雄君。

(2番議員 島貫寿雄君)

ネガティブな私と違って、アクティブな嵐町長の答弁をいただきまして、ますます期待を持ちたいと思います。続いて、3番目の再質問になります。先日行われましためぎみの里まつり、私は体調不良で欠席でしたが、聞くところによりますと、義務教育学校の校名の再考を求める署名活動があったということを知りました。

名前が決まったのは一昨年の12月議会の設置条例ですので、どうして今頃なんだろうと思いましたが、自慢するわけではありませんが、私、携帯に二千数百人ほど登録なってますので、いろいろな方にお聞きしました。黙っていてくださいというお話でしたが、昨年の町長選挙で多くの若者は、嵐町長が誕生すれば義務教育学校の名前の再考をしてくれるはずだと応援したそうです。誰が町長になっても、財政難で大きな事業はできない、これは皆さん分かっております。ただ、義務教育学校の名前はもう一度考え直してほしいと思い、嵐町長に大きな期待を寄せて応援をしたと。しかし、いまだ町民には動きが分からない。だからこそ、今の動きだということです。この動きは、各地区で今動いてるようです。それが先ほど私最初にお話しした飯豊町も静かに変わってるということです。もう数百人、千人集めたいという若者の動きがあるそうです。

そういう動きが、具体的に町長のところに届いたとき、やはり先ほど私が申し上げた町長の決断、多くの町民、若者が嵐町長の決断、覚悟を求めているということです。漢字で23票、平仮名で9票、合計32票の飯豊学園、片やたった2票の「いいでの森学園」。常々、町長は開校準備委員会や教育委員会、総合教育会議等の熟慮、厳選の上の選定、議会での議決を尊重してと発言されておりますが、この数字の重みも私は重く捉えていただきたいと思います。町長、どのようにお考えになりますか。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

島貫寿雄議員の再質問にお答えをいたします。

署名というのは、今、私初めて知りましたので、そういう動きがあるなというのはまず理解

をしました。再三になりますので言いませんけれども、熟慮という部分ではそういう部分があるというところ。あとは数字の部分、今出ましたけれども、その点も含めながら、あとは今、町内で動いている流れも含めながら、12月まで何とか答えを出していきたいと思っております。

やはり、声を聞く中ではいろんな意見がございますのでそういう部分も勘案して、総合的に判断して、町民の皆さんにお示ししたいと思っております。

(議長 屋嶋雅一君)

島貫寿雄君。

(2番議員 島貫寿雄君)

若者の声の一番町長に訴えたいということは、やはりそういうような多くの若者の声が届かない町では住みたくない。それを受け止めてほしいという、変えるのではなくて再考ですから、どうなるか分かりませんが、そういうチャンスを嵐町長につくってほしいという要望があるということです。

その話に関連して若干話が変わりますが、今、ウクライナは大変な状況にあります。戦争の死傷者は6万から10万人と言われております。その中で、手足や目を失った方が3万人もおるそうです。命がけで戦ったその方々が、今、肩身の狭い思いで生活していることをご存じでしょうか。もともとロシア圏では、障がいを持つ子供が生まれると社会から隔離し、日常障がいを持った人を目にするにはないそうです。現状の戦争によって障がいを持った人が、奇異な目で見られるという悲しい事態に陥っております。

一昨年12月議会において、暫時休憩の全員協議会において、その若者の声、町民の声はロシアに行ったら全員プーチンと書く、アメリカに行ったら全員トランプだと、当時の後藤町長は表現されました。この言葉は私は納得できません。町民を冒瀆するような発言です。そんな町民の、そんなに町民の声というものは軽いものなのか。全く納得できない言葉でした。それともご自分がプーチン大統領になったのかと勘違いするような発言でした。そこまで言い切ってしまうまでこだわった理由よりも、私は町民を見下す姿勢に対して私はがっかりしたということです。そしていろいろなことが起こりました。やはり、そういうような経緯もあったということは事実ですので、そういうことを知ってる町民がやはり今声を上げているわけです。

嵐町長に10か月期待したと、町長も考えはある、しかし見えないと、だから動く。この若者の声を無視したら、これから嵐町長の飯豊町づくりに大変なダメージを被るんじゃないかと私は心配しますが、町長、どのように、私の個人的な、感情的な思いになるかもしれませんが、どのようにお考えになるかお聞きしたいと思います。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

島貫議員の再質問にお答えをします。

再三繰り返になりますけれども、しっかりそういう動きは受け止めますし、決してそれがないがしろにして、自分の思いを貫くことは考えておりませんので、納得していただけるかどうかは別としても、いただいた意見には真摯に取り組んで、ちゃんと自分の口で説明をしたいと思っております。

(議長 屋嶋雅一君)

島貫寿雄君。

(2番議員 島貫寿雄君)

分かりました。これからの町長の動きに注目していきたいと思います。1番目の質問の5番目、身を切る改革というお話をいたしました。これは、町長が自ら報酬をカットしなさいということではありませんので、誤解のないように受け止めていただきたいと思います。ましてや、職員の皆さんにそんなことをすれば、モチベーションが下がるということは当たり前のことで、身を切る改革ということで一番有名なのは、島根県隠岐の島の海士町の山内道雄町長です。この海士町の場合は、町長が自ら報酬カットしたわけでありません。町の窮状を鑑みて幹部職員がまずやり、町長がそれに応え、一般職員までやると。それは大変美談ですが、それを皆さんに強いることは、私はしません、当然。

しかし、身を切るということは、役場全体が身を切るということです。今ある予算の配分を変えていく。やるべき事業、やったほうがよい事業、やってもやらなくてもどっちでもいい事業、すべきでない事業の仕分をしっかりとやって、町民のニーズに全く合っていない事業の見直し、見るべきは町民の顔です。財政の肥大化を防ぎ、狭いより広い箱物、短いより長い道、前年よりも大きな予算を評価する時代はもう終わりました。役場の予算削減の自助作用をどうお考えになるかお聞きしたいと思います。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

島貫議員の再質問にお答えをいたします。

身を切る覚悟ということでお話をいただきました。私も、報酬とか給与をどうのこうのとい

うのはちょっと違うんでないかなと思ってましたので同じ意見だなということで共感しているところがございます。町として私が就任して、やはり町政する上で、選択と集中という言葉が大事にしたいということで、職員の皆さんにもお話をしてまいりました。

そういう中で今、まさに島貫議員からあったように、例えば、事務事業シートを使いながら、既存の事業を見直してしっかりと限りある予算を、身近なところ、あとは本当に必要な部分に充てるような努力をしておりますし、あとは、なかなか今まで町としていろんな補助金、交付金を取りに行くという姿勢が、少なかった。ありはしましたけども、もっとアグレッシブに取りに行こうということで、政策研究会なんていうものを立ち上げながら、若い職員がそれに賛同して勉強会をしながら、二世交代金であったりとか、いろいろ防災のお金であったりとか取れるものを考えて、少しでも財政の負担を軽くしようということで、自分の業務以外にも勉強会に参加をして、時間を割いて町政に当たっています。

これはある意味、身を切る覚悟だと思いますし、今回、土曜日にめざまの里まつりがありましたけれども、あのお祭りは町民の皆さんのご理解をいただきながら、企業からの協賛金なんかを頂いて、本当にたくさんの方に支えていただいてお祭りをさせていただきましたけれども、その裏として、いろいろな催し物、事業を朝から夜まで行いました。その中では、職員の皆さんがいろいろな立場、業務を担いながら、夜遅くまで朝早くからということで、町を盛り上げるために頑張っております。これも、やはり自分の時間を割いて、そこは職員というのもありますけれども、何とか町を活気づけたいという思いで進んで取り組んでいるというところがありますので、やっぱり職員がいかにかこのまちを活性化して、暮らし満足度が上がる、やっぱり飯豊で幸せになるということを、町民の方に体現してもらおうということを念頭に置きながらやっていくということが、身を切るという意味とはちょっと違うかもしれませんが、それぐらい町政に一丸となって進んでいくという覚悟は、今、町としては持っておりますので、ぜひ議会の皆様からはそこに関していろいろご指導とか、ご支援、ご協力をいただければなと思っております。

(議長 屋嶋雅一君)

島貫寿雄君。

(2番議員 島貫寿雄君)

ただいま、大変いい答弁いただきました。まず、屋嶋議長も常々言っておりますけども、やっぱり自分の健康が一番ですので、まず健康に気をつけて頑張っていっていただきたいと思えます。それでは2番目の質問の再質問になります。お手本とする人物はちょっとお聞きできな

くて残念でしたが、私は若い首長として、隣の秋田県の大館市の石田健佑市長と弟の陽佑君、双子の兄弟に大変注目しておりまして、そのうち会いに行ってみたいなと思ってます。2人は秋田県生まれですが青森県の工業高校を卒業して上京し、IT企業でちょっと失敗をしました。お兄さんのほうは独学で勉強して慶應大学に入りました。しかし、入学金が用意できなくて進学は断念。弟さんも優秀で弟さんは青山学院大学、これは中退しました。そんなことをしているうちに、お二人はおじいちゃん、おばあちゃん子なんです。おばあちゃんから、おじいちゃんが倒れたと聞いて、2人はUターンをします。そして、じいちゃん、ばあちゃんの好きな大館をよくしたいということで、お兄さんは議員になり、市長になったわけです。町長も当然ご存じですけども、カブトムシ社長ということで大変有名な方です。協力隊なんか使って、毎年七人、八人ぐらい使ってるんですけども、この2人は行政マン、首長と経済人ってことでいろいろリンクしながら、これから2人で秋田の未来を変革するんだと頑張ってます。

ここで嵐町長と一致するのが、その家族思いとかふるさと思い、そういうものが根っこにあるから、そういうことにチャレンジできるんじゃないかなということ、私は大変注目しております。全国で最年少の市長になったわけです。芦屋の高島市長を抜いて、20代で。西嶋副町長が町長になったような感じです。ぜひ、そういう方もたくさんいらっしゃいますので、いろいろ交流を深めて、自分の刺激にしていきたいと思います。

質問のときに、いい町ばかりじゃなくて、飯豊よりもっと大変な町も見るといいんじゃないかということで、町長も答弁に只見町が上がってありました。私も只見町は以前からずっと行きたかったんですが、ちょっと時間貧乏ですのになかなか行くことができず、ようやく先月8月8日にちょうど少し涼しく議員仲間も行ってくれるということで、只見町、初めてお邪魔しました。翌19日には店を閉じて、かみさんと2度目。気に入ると何度も行くタイプなんでお伺いしましたけども、喜多方には皆さん、相当行ってらっしゃると思います。柳津にも行くと思います、虚空蔵様がありますから。しかしそっからはなかなか行く機会がないと思います。

喜多方から80キロ、柳津から60キロ、柳津のファミリーマートが過ぎると60キロ、コンビニが1軒もありません。60キロコンビニのない国道を走ったことありますか。私、生まれて初めてです。で、最初の三島町、これは飯豊町と縁のある美しい村連合に入ってる町です。道の駅に大変な看板がありました。道の駅から10分ぐらい歩くと、只見線の一番のビュースポットがありまして、写真撮りがいっぱい行くんですね。コンビニがないので、三島町とその先の金山町、両方とも道の駅がメインです。金山町は道の駅のほかに、只見線の駅の隣、駅を挟んで郵便局と農協、町民が一括してそこで用を足せるようになっています。三島が1,926人、金山

町が1,649人、只見町が約3,500人です。想像してみてください。高峰のそば工房みたいな道路を延々と60キロです。宇津トンネル抜けてから沼沢までは横に広がりがありません。私が見たところ、4回往復しましたから、4回通りましたけども、この5年、10年で建てられたようなうちは1軒もないです。若者が住まないところだと思います、残念ながら。

只見町は町中心部で積雪が3メートル、有名な田子倉ダムで5メートル、消雪道路ありません。消雪では消えないんです、雪が。屋根には雪止めがありません。どうしてですかって聞いたら、雪を止めたら一晩で潰れるそうです。だから、落として雪を水で消すと。いや、大変な町を知りました。大変観光で有名だったので、私はもっと開ける町だと思いましたが、大変なとこだなと思いました。そして、2度目でやっと、3時頃、只見線走ってるのを見ました、2両編成。平日の火曜日でしたが、6割は乗車してました。私は復旧してから1日3便だと思ってましたが、勘違いで災害に遭う前から1日3便です。要するに、午前中、通学、通勤で使う人がいないので、全くの観光列車ということです。しかし、その観光列車がなければ只見は生き残っていきません。

ですから、飯豊や小国よりもはっきり言って復旧に対する思いが全く違います。やっぱりそういうところを見てこないと。やはり、只見線は大赤字でも、JR東日本は大きな黒字企業ですから、当然国から補助金出ないわけで、県と国と町と市町村、飯豊は絆まつり3町でやってますよね。只見線は13市町がお金を出してるわけです。だから、飯豊や小国やろうとしたら高畠、南陽、白鷹まで含めて、それぐらいのパフォーマンスでやってるわけです。これぐらいやらなければ、国は動かない。

そういうところも私はぜひ見ていただきたいということで、一つ提案ですが、町長の考えられるスタジオ嵐、これをマイクロバスでやったらどうでしょうか。先進地や飯豊よりも恵まれてない地域、頑張ってる姿を、町長を先頭にして有志を募って、バスの中でいろんな議論をしながら向かって、現地踏査をして、帰りにまた反省会をしながらやってくると。そういう声を行政に反映すると。そういう移動式のスタジオ嵐を、私はやっていただきたいと思いますが、町長、どうでしょうかね、このアイデア。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

ただいまの島貫議員のご質問にお答えをいたします。

町民の方と一緒にってことですか。ありがとうございます。大変すばらしいなと思います。

やはり実際に見てみないと、聞いてみないと分からないということもありますので、ただマイクバスがいいのかどうかは別としても、そういう大変なところに行って、復旧した、今、只見線の話でしたけども、参考になるところがあるのであれば、自分1人でなくていろんな方を交えながら、そういう場所を見ながら地元の方のお話も聞きながら、自分の飯豊町の参考にするというのは非常に大事なことだと思いますので、何らかの形でちょっとできればなと思っております。

(議長 屋嶋雅一君)

島貫寿雄君。

(2番議員 島貫寿雄君)

先日、全協でもお話ししました中学校を役場にしてるとというのが只見町です。只見高校、定員が20人です。20人、3学年60人おります。今、沖縄から留学している子供もいます、野球好き。野球部が数年前に、選抜高校野球にベストエイトに入りまして、県大会で、20世紀杯で甲子園出場しておりますけども、ナイター設備のある球場を使い放題、ナイター料無料ということで、町を挙げて応援してます。役場お邪魔したら只見高校の生徒たちが職場体験で、役場に来る人がいないんです。それで、子供たちが一生懸命職員さんと役場の仕事を体験していたり、とてもいいなと思って、私、見て帰りました。ただ、やっぱり役場欲しいということで今議会でも議論になってるようですが、お金がないので当分できないということです。観光でお客様さんが来るかと思うと、泊まる人はいないようです、温泉たくさんありますけども。民宿もあります、民宿はほぼ建設業者が泊まってるという状態で、ほとんどのお店と宿泊施設はクローズという状態でした。田子倉湖の売店とかレストランも、もうやめていると。楽しみにした遊覧船ももう潰されて、土台だけが上がってる状態でしたけども、やはりこれから三条まで抜ける道路も出ますんで、それに期待するという町で、行って見て初めて目からうろこというのは、私、感じたところです。ぜひ町長にもそういうようなことを、先ほどおっしゃったようなメンバーを伴って、行っていただきたいなと思います。

それでは、3番目の今問われる教育委員会の重要な役目、教育長としての使命はというところに再質問を変えたいと思います。私、同級会の幹事をずっとやっております、幹事長を。好きでやってるわけじゃないんですけども。一番最初にやったのが高校3年生のときです。高校卒業したら皆別れ別れになるんだなということで、飯豊中学校をお借りしてやったのがきっかけです。269名で卒業しました。もう五、六回やっていますが、こないだデータを全部取りましたら、72名は絶対来ないんです。絶対来ないです。返事もないんです。ほぼ全ての人にお電話

しました。40名も亡くなってるんですが、一番多いのが、行きたくない一番多い理由が、先生のえこひいき、これが一番多いんです。

何でこれが問題かという、十四、五歳の頃に受けたその思いがそのまま70歳になるんです。そこだけはずっと同じ状態なんです。この重みを私は現場の先生に考えてほしいんです。好き嫌いがいいんだなんて、先生はほとんどそうおっしゃいますけど、私は絶対あると思います。好き嫌いはあっても、好き嫌いは表沙汰にしないと、そういうことを口にする先生なら信用できますけども、好き嫌いのない人なんて世の中にあんまり私はいないと思います。

ここで紹介したい、ちょっとコラムがあります。議長に止められないように、簡単に読みますが、20年前の日本経済新聞に職員室というコラムがありまして、これ私ずっと大事に取ってるんです。中学校で運動部の指導をしている先生のコラムです。

5年前のテニス部に新入生10人がそろったと。体育の成績が全員2だと。何しろ軽いランニングも駄目、すぐ息が上がる、素振りを教えてもまるで形にならない、先のことを考えると頭が痛い。中でも、A君とB君はとりわけ不器用で一つの技術を繰り返し繰り返し教えても、全く物にできない、そのぎこちない姿からロボットというあだ名までついた。ただ2人には他の生徒にはないものがあると。何回怒られようが、どんなに練習がつかろうが、決して最後まで諦めずに粘り強く耐える姿勢があったと。2人がペアを組んで試合に出るようになったが、全く勝てなく卒業したと。3年間楽しかったけど、3年間結果は出なかったけども、苦しかったけども、テニス部でよかったという言葉を集集に残して卒業していったそうです。それから2年、何気なく開いた地元紙に2人の記事を見つけた。何と高校の県大会で決勝戦まで勝ち進んでいたのである。正直言って驚いたと。同時に、生徒の持つ可能性のすばらしさを思い、いつも真っ黒に日焼けしていた2人の顔を思い浮かべた。

こういう逸話を聞いて、教育長はどう思われるのか。ちょっとお聞きしたいんですけども。やはりその生徒の可能性を奪うような生徒指導はやってほしくないという思いがありますので、ちょっと教育長にこの話を聞いた感想をちょっとお聞きしたいんですが。

(議長 屋嶋雅一君)

教育長 菅原 透君。

(教育長 菅原 透君)

2番島貫議員の再質問にお答えいたします。

私自身、同じような経験をしておりまして、自分は本当に力がない存在でありまして、それを様々、自身の努力もありましたけども、教師の導きによってあるいはその指導者の導きによ

って自分がある程度力をつけたところがあります。今の可能性ということがありますが、子供は無限の可能性を秘めていることが、あ～すの壁面にも、平成14年の子供フォーラムですか、その結果として書いてあることもありますし、あとは私自身、やっぱり努力は必ず報われるということを信条としてやってきました。

子供は本当に一人一人が違います。でもそのよさを発見するということ、よさを認識することで、一番教師には大事なことであって、そのよさをいかに伸ばすかということが、教師の専門性として求められていることかなということを思っています。体験であるとか、そういう様々な体験をしたことが自分の感性を磨いてきて、教師の資質向上にもつながってきているなということを、自身感じながらこれまで進めてまいりました。この後も、町内の職員に向けてそのようなことを啓発してまいりたいと思います。

以上でございます。

(議長 屋嶋雅一君)

島貫寿雄君。

(2番議員 島貫寿雄君)

私は中学時代に、いろんな先生からいろんなことを受けまして、こういう面倒くさい老人になってしまったんですが、菅原先生のような先生が担任だったら、また違った老人になったと感じております。大変ありがとうございました。

少し前のデータに、130人に1人が教員というデータがあります。130人に1人の先生が全て心の教育の専門家ではないと思います。他の人物により影響を与える人物だなという教員がそろ飯豊町の教育行政を、教育長にお願いしたいと思います。

時間がなくなりましたので、最後の4番目の質問につきましては、やはり変わった意見や、そういう意見が自由に言える町であってほしいと。そういう人を削除することをやっぱりやめてほしいと思います。

私のことになりますが、町の振興審議会がありますが、20年ほど前に萩生の方が振興審議会の会長でした。その方は私を大分嫌っていましたが、あるお酒の席で意気投合して話したら、島貫さん思ったよりいい人だねって話になりまして、大変な悪いうわさもありますので、一方で、これ「らしい文化」と言うらしいです。うわさで人を評価する「らしい文化」。その人が私に言いました。萩生からは島貫寿雄を絶対振興審議委員にしないという申し送りがあったと聞いて、私、驚きました。いや、ならなくてもいいんですけども、そういうことがあったということは事実ですので、そういうことはしないで、やっぱりいろんな人を吸い上げている

んな意見を生かしていく町に、私はしていきたいと、して行ってほしいと思いますので、最後に1分30秒であります、嵐町長にご答弁をいただいて終わりにしたいと思います。町長、お願いします。

(議長 屋嶋雅一君)

町長 嵐 正人君。

(町長 嵐 正人君)

島貫議員の再質問にお答えをいたします。

多分人選とか、そういう話だと思いますけれども、決して私も、あの人は絶対駄目だとかそういう、あの人は駄目らしいねとか、そういう人らしいよっていうような言葉で、人を選ぶつもりもありませんし、そういう町では全然、暮らし満足度が上がるような町にはならないと思っています。やっぱりいろんな、島貫議員、いつもおっしゃる異見って、異なる意見というのをいつも言いますが、当然異見あつての町政だと思いますし、地域づくりだと思いますので、やっぱりそういういろんな意見を逆に出してもらえような雰囲気づくりと、あとはそういう意見を言える人をいっぱい作るっていうのが、これからのまちづくり大事なのかなと思っています。

やっぱり、まちづくりは人だと私はと思っていますので、しっかり人と向き合ってお話をし理解をいただいて、反対をもらったりとかいろんな部分があると思いますけれども、そういう部分を大事にしながら、顔の見える行政をやっていきたいなと思っておりますので、ぜひいろんな場面でご指導とご助言をよろしくお願ひしたいと思ひます。

(議長 屋嶋雅一君)

島貫寿雄君。

(2番議員 島貫寿雄君)

最後になりましたが、町長と教育長には大変失礼な質問もあつたかもしれませんが、期待を込めての質問ですので、好意的に受け取っていただきたいと思ひます。ありがとうございました。

(議長 屋嶋雅一君)

以上で、2番 島貫寿雄君の一般質問は終わりました。

これをもちまして本日予定されました議事日程は全部終了いたしました。

これにて散会いたします。

大変ご苦勞さまでした。 (午前11時51分 散会)